

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071602074
法人名	学校法人 久留米ゼミナール
事業所名	グループホーム 野中つつじ苑
所在地	福岡県久留米市野中町771-1 (電話) 0942-39-2700

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 6月 17日
評価確定日	20年 8月 7日

【情報提供票より】 (平成20年5月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	23 人 常勤 15人, 非常勤 8人, 常勤換算 15.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3階建ての ~ 2・3階部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,500 円	その他の経費(月額)	15,500 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年5月28日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都内科医院・新古賀病院・毛利歯科・堀川病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市の中心部に近く、文化施設圏内の閑静な住宅の中に位置し、近くの公園や、その少し先の文化センターは利用者の日常の散歩の場所となっている。職員は整形外科医師の講習を受け、体操を毎日行い利用者の転倒予防に努めている。外出の機会も多く利用者同士の和やかな語らい等も多々見られ、家族からの意見希望等が適切に運営に反映されている。苑長をはじめ全職員は高い介護への意識を持ち、利用者本位のサービスの質の向上に努めており、さらなる取り組みが期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題については、理念に新たに地域密着の視点を加え、地域との交流を深める等、改善シートを作成し取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は事前に職員で回覧・検討し、その後管理者と協議しながら集約した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営会議を定期的開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価などを報告して、委員から意見や要望を引き出す働きかけをしている。委員からの要望で、地域内に事業所の看板が設置された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	玄関に意見箱を設置し、家族の来訪時に声かけする等、積極的に家族の意見、不満、苦情を聴取するように努めている。相談苦情も「家族相談・苦情ノート」にまとめられており、適切に対応している。第三者相談窓口については書面で示して説明し、玄関にも掲示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や運営推進会議を通じて地域の当番や祭り、公民館行事・敬老会・文化祭・独居老人の会等に参加したり、幼稚園との交流を図ったり、演芸ボランティアを受け入れる等、積極的に地域との交流に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に、地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務所に掲げ管理者と職員は、ミーティング時に具体的ケアについて意見の統一を図り、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や運営推進会議を通じて地域の当番や祭り、公民館行事・敬老会・文化祭・独居老人の会等に参加したり、幼稚園との交流を図ったり、演芸ボランティアを受け入れる等、積極的に地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は事前に職員で回覧・検討し、その後管理者と協議しながら集約した。前回評価の改善課題については、理念に新たに地域密着の視点を加え、地域との交流を深める等、改善シートを作成し取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を定期的で開催し、現状や今後の活動計画及び外部評価などを報告して、委員から意見や要望を引き出す働きかけをしている。委員からの要望で、地域内に事業所の看板が設置された。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談等で出向いたり、日常的にメールで報告等のやり取りを行い連携を図り、サービスの向上に努めている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修を受講した職員は伝達講習をしたり、内部での勉強会を行っているが、全職員が周知するまでには到っていない。テキスト、パンフレット、研修記録等は解りやすく整理している。	○	全職員の研修受講の機会を持ち、利用者や家族への情報提供ができるよう、制度への理解を深めてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	概ね2ヵ月1回発行の事業所便りと写真等を毎月手渡している。また家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態の報告を行っている。金銭管理についても、毎月領収書原本を手渡し家族から署名または押印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族の来訪時に声かけする等、積極的に家族の意見、不満、苦情を聴取するように努めている。相談苦情も「家族相談・苦情ノート」にまとめられており、適切に対応している。第三者相談窓口については書面で示して説明し、玄関にも掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動や離職を最小限に抑えるよう勤務や人員配置、設備の充実等の工夫をしている。やむを得ない異動の場合は、利用者のダメージを防ぐために引継ぎの期間を十分取っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては介護への思いを大切にしており、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。また、教育や資格取得など、職員の自己実現が出来るように、安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>一部職員が人権に関する研修に参加し、他の職員に伝達研修をしており、テキスト、パンフレット、研修記録等見やすく整理している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は全職員が日常的に学ぶことを推進しており、概ね2週間に1回の内部研修を行い、外部から研修案内があれば受講し易いように配慮している。職員の経験や力量に応じ、介護福祉士やケアマネージャー等の資格取得にも配慮している。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護福祉サービス事業者協議会グループホーム部会に加入し管理者、職員が参加している。また2ヵ月に1回程度、近隣の同事業所との交流を図り、サービスの向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学や体験入居、自宅や病院等の訪問を行い、馴染みの関係を築くように家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合は、利用者に対応出来るよう夜勤を2人体制にしたり、職員を増やすなど配慮・工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の下ごしらえや掃除等を共に行い、漬物漬け等職員が知らない生活の技を利用者から教えてもらったり、畑仕事、将棋、裁縫等利用者の得意分野を発揮してもらいながら職員と利用者が共に過ごし、学び支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ一人ひとりの思いや希望、意向などの把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には表情、機嫌や多動など動きの変化で思いなどを汲み取り、本人本位の支援をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族・担当職員の希望、思いや意見を参考にし、全職員で1ヶ月に1回、カンファレンス・モニタリングを行いアイデアや意見を出し合い、一人ひとりに即した個別具体的な介護計画を作成している。本人・家族了承のサインや押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直し、6ヶ月の定期的見直しや評価を行っている。また、利用者の状態変化や状況に応じてリーダーや担当者が家族へ連絡し、家族とカンファレンスを行い、随時見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の入院時は本人を見舞いながら本人・家族・医療機関と連携を図り早期退院へ向けて取り組んでいる。通院や送迎等はなるべく管理者である看護師が付き添い行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医で受診できるように送迎支援している。また、事業所嘱託医と24時間体制の受診を行えるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応・終末期ケア対応指針を作成している。利用時に本人・家族の意見を聞き医師・職員・関係者全員で話し合い、指針を基に事業所で行える支援について説明し、関係者全員の合意のうえで方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修やミーティング等で全職員の意識化を図り、諸場面での声かけや対応について、日常的にプライバシー確保を心がけケアを実践している。人前では利用者の個人的な話はしないようにし、個人情報の取り扱いについても職員の意識化を図り、気を付けて保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日にしたいことを把握し、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重して支援している。朝寝の好きな利用者にはゆっくり起きてもらい、遅めの朝食、レクリエーションも必ず声をかけ本人の意思を尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、食事の準備や後片付けを一緒に行い食事を楽しめるようにしている。一部の職員は同じものを同じテーブルで食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の希望に沿った入浴支援をしている。入浴拒否の場合は、時間や人を代え、言葉掛けを工夫したり、入浴剤を使用するなどの支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理・梅干漬け・掃除・畑仕事・裁縫・将棋・カラオケ・塗り絵等一人ひとりの力を活かした役割・楽しみ事や気晴らしの支援をしている。職員はその都度感謝の気持ちを伝えている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は体調に配慮しながら、近くの公園や事業所周辺を毎日散歩している。月1回はファミリーレストラン等で外食し、買い物は週1～2回、ドライブは月1回程出かけ四季折々の花等を楽しんでいる。年1回程度は温泉等遠方にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件により、家族の確認・同意を得て玄関はやむを得ず施錠し、2階ベランダも同様である。3階ベランダの施錠はない。	○	利用者の安全を考慮しながら、様々な工夫をし、鍵をかける頻度を少なくしてほしい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を行い、マニュアルを作成し職員は周知している。地域住民に参加の呼びかけを行っている。非常食や飲料水、備品の準備がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員は利用者の食事と水分摂取量を把握しており、全職員の記録がある。利用者の嗜好調査を行ったり月1回は食事についての会議を持つ等、利用者主体に検討し、職員である栄養士がカロリーやバランスを考え献立を立てている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は明るく開放的でテーブル・椅子・ソファ等も利用者の希望で時々配置換えをしている。手作りの小物や季節の花などが飾られ、和みと安らぎがある。不快な音もなく、カーテン等で光にも配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の馴染みの筆筒・テレビ・テーブル・椅子・家族写真・植木鉢・小物等が持ち込まれ、壁には友人からの絵手紙が数多く貼られているなど、個性的で居心地の良い居室となっている。</p>		

※ は、重点項目。